

# 英語英文学の背景

## ——英国の田園——

三 谷 康 之

### —— 序 ——

外国語を学ぶ者にとって、最も隔靴搔痒の感を覚えるのは、文化・風俗の違いから、彼の国には存在しても我が国には無いものを表わす言葉に遭遇した時であろう。幾冊かの辞典類に当たってその説明文を三読しても、一向に釈然としない場合である。例えば、“dry-stone wall”と言う言葉があるが、この見出しで取り上げてある英和辞典類は皆無と言って良い。『新英和大辞典』（研究社 第五版）や『ランダムハウス英和大辞典』（小学館 第一版）では、“wall”の所で“stone wall”に「石塀」の訳を付しているのみである。英英辞典の方ではどうかと言うと、『ウェブスター英語辞典』（第三版）や『オックスフォード英語辞典』では、“stone wall”の項で、「畑地などを囲うためのモルタルを用いずに築いた自然石による塀」とあり、『コリンズ英語辞典』では、形容詞“dry-stone”の所で簡単な説明が見られる。しかし、これらの語義の解釈から、果して、あの英国の丘陵地帯にモザイク模様を成して続く“dry-stone walls”のイメージは浮かび得るであろうか。あるいはまた、“packhorse bridge”と言うものがある。英国田園の景地を絵にする場合、不可欠のものであるが、これなども英英辞典類にすら説明は見られない。また、説明の文字に出会って、想像を逞しゅうして見た所で、なお眼前に彷彿とまでは行かぬものに属すであろう。しかも、こう言った言葉が文学作品の中に頻りに現われるとなると、せめて写真なり挿絵なりで一目瞭然と行きたい所だが、『ドウデン挿絵辞典』の絵は一般に簡

略に過ぎ、『アメリカン・ヘリテイジ英語辞典』の写真は一項目に一葉の写真で、一つのものに数種の型がある場合、載せられていない。こう言った所から、彼の国に在って此の国に見られないものを、英語・英文学の背景として取り上げ、それに写真及び挿絵と最小限度の語義説明を付し、実際の作品からの引用文を添えて見ることを考えた次第であるが、取り扱うべき項目は概略次の様な分類になった。

建 築  
一 般 家 屋  
窓  
建 築 一 般  
橋  
教 会  
城  
自 然 と 田 園  
自 然  
田 園  
職 業 と 人 物  
市 民 生 活  
庭  
塀  
街  
交 通 機 関  
国 鉄  
地 下 鉄  
バ ス  
タ ク シ ー  
そ の 他

ただし、紙面の都合上、到底全ては掲載不可能故、他は別の機会に譲ることとして（「建築」に関しては『文叢』17号〔昭和59年6月 成城学園高等学校〕に発表）、ここではその中から「自然と田園」の内、更に「田園」に関するものだけに限定せざるを得ず、写真の方も三枚の所を二枚乃至

は一枚にせざるを得なかったと言う次第である。実際の作品からの引用文に関しては、詩、小説、紀行文の他に、所謂案内図典類からも抜いてある。また、努めて、童話の類からも採るように心掛けて見た。しかし、上記に同然の理由で、その数も最小限度にしてある。なお、写真は筆者が英国留学中に撮影して来たものを主に用いてあるが、次の挿絵あるいは写真は、下記の方々の御好意により掲載させて戴いたものである。末筆ながら衷心より御礼申し上げるものである。特に、黒澤充夫氏並びに高橋威足氏には、御多忙中ながらわざわざこのために挿絵を描いて下さったこと、ここに深謝申し上げる次第である。

### 挿 絵

黒澤充夫氏 (10) (34)

この内 (34) は研究社辞書編集部により『新英和大辞典』(第五版)からの転載の便宜を図って戴いたものである。

高橋威足氏 (4) (5) (11) (32) (33) (36)

### 写 真

Douglas M. Spence (27)

David Wilson (22)

鈴木麻穂氏 (7)

村井坦郎氏 (6)

※ 数字は掲載した挿絵・写真の通し番号を示す。

### 凡 例

- 見出し語の配列はアルファベットの順序を原則としてある。
- 見出し語のつづりは英米の現行の辞書に出来る限り従ってある。
- ★印は見出し語に関連した付随項目として取り上げたものを示す。
- ▲印は★印の項目に更に関連した付随項目として取り上げたものを示す。
- 英語表現に於いて ( ) は語法上省略可能なことを示し、[ ] は前置された語と置換可能なことを示す。
- 見出し語の説明文の中に用いてある→の記号は、参照すべき見出し語(それに関連した付随項目をも含めて)を示す。また、→の記号は参照すべき写真乃至挿絵を番号で示す。

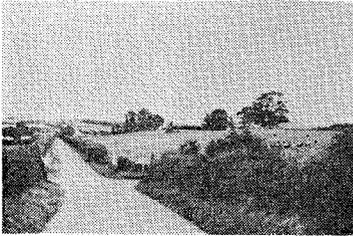
- 引用文の出典表記は、単行本の場合はイタリック体で記し、作品集の中の一編を表題とする場合は引用符でくくってある。
- 同一の見出し語でもつづりの異なる場合、出来る限り異なるつづりの用いられている引用文を示すようにしてある。

— 英国 の 田 園 —

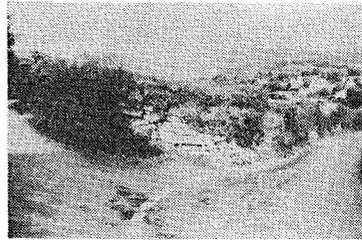
( 英国の自然に関しては、独立した章で扱うために、  
 ここには含めていない。 )

country road

田園・村落を通る道路。田舎道。道路の両側には草に包まれたなだらかな丘がうねるように見えているかと思うと、平らな原が続く。生け垣 (hedgerows) や石造りの塀 (dry-stone walls) が丘と言わず原と言わず囲いを成して伸び、その中には牛や羊が草を食んでいる、あるいは小麦が突っている、藁葺きや石造りの屋根の煙突からは白い煙が立ち、彼方には教会の尖塔を高く望む、道はその中を緩やかに坂を成して何処までも



(1) Dorset



(2) Chagford



(3) Glamis

続いて行き、その先は反り橋に達する、と言うのが、英国の田舎道と言うものの一般的なイメージであろう。道の分かれる所には signpost や milestone が据えてあるものである。

As the words were spoken, they passed through the wall, and stood upon an open country road, with fields on either hand. The city had entirely vanished.

— C. Dickens: *A Christmas Carol*

★ **guidepost, signpost**

道路の分岐点など、路傍に据えられる道標としての柱で、方向や距離を示してある。道標。道標柱。follow the signpost to Laxton と言ったり、動詞に用いて、the road signposted to Doncaster と表現したりする。→(4)

I drove on. The wheat would have been as tall as your waist. It went undulating up and down the hills like a great green carpet... And a bit ahead of me I saw the sign-post where the road forks right for Pudley and left for Oxford.

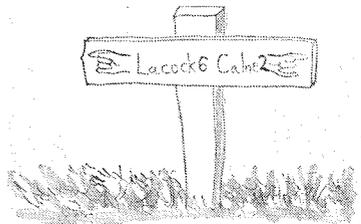
— G. Orwell: *Coming Up for Air*

▲ **fingerpost**

上記の signpost と目的は同じであるが、通例は方向を示す手の指の形 (pointing finger) がデザインされてある。この型の signpost は17世紀後半に作られるようになった。指道標。→(4)(27)

▲ **guideboard**

道案内を記してある立て看板。道案内板。



★ **milestone**

1 マイル毎に路傍に据えられる距離を示す道標で、通例は低い石柱である。我が国の里程標・一里塚と言った所。マイル標石。→(5)

Bartlett, our old head-keeper, was a witness, my lady; I had to drive half up the bank, and it's true — over the fly did go; and the vaws it shoots out against the twelfth mile-stone, just as though there was the chance for it!

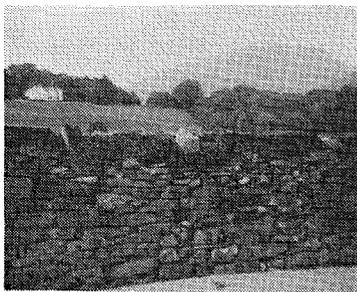


— G. Meredith: *The Egoist*

(5)

### **dry-stone wall, stone wall**

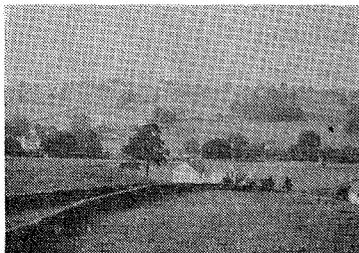
畑地や牧草地や放牧場の境界を示す (mark the boundaries of fields) ものとして、hedgerow (生け垣) に依るのではなく、自然石で、しかも、モルタルを用いずに築かれた、低い塀状のものを言う。18世紀の農業改革で、サクソン族以来の畑地を、新たに4年周期の輪作に適するように分割し、囲い込まなければならなくなった事 (enclosure) に端を発するもので、その際に、その土地その土地で最も便宜の利く素材が用いられ、天然の石材に依ったのが、これである。単に囲いとしてのみならず、荒天の日には、羊などがその風下の側に風雨を避ける上でも役に立ち、また、崖や雨溝 (gully) へ落ち込むのを防止すると言う意味もある。用いられる素材の石の種類によって、外観の印象にも差があるが、これが英国の田園に独特の景地を成し、山 (mountain, crag) や谷 (valley) や丘陵 (fell, hill) 地帯をうねるように続いている。碁盤の目のような水田が日本の田園に特有ならば、hedgerow やこの dry-stone wall で寄布細工宜敷く囲まれた眺めこそ、英国の田園風景の典型であると言えよ



(6) Lake District



(7) Haworth



(8) Lake District



(9) Lake District

う。a network of dry-stone walls とか, a stone mosaic on the valley floor, あるいは, the dry-stone walls which snake and wind across the mountains とか, Dry-stone walls criss-cross the fells. などと言う表現もある。しかし, 上にも述べた農業改革の到来の結果, それまでは不規則な形に依る patchwork とでも言うべきものが, 形の一律な, 面積の広い畦いから成るように, 変ってしまっていると言われている。

Half breathless from the steep hill's edge  
They tracked the footmarks small;  
And through the broken hawthorn-hedge;  
And by the long stone-wall;

— W. Wordsworth: *Lucy Gray, or Solitude*

Here and there man, exercising his amazing sense of property, has painfully built stone walls, breast-high and brown, to include a few steep acres of tough and soggy grass where black-faced sheep, perpetually optimistic, seek scattered nourishment as they wander, shaggy and unkempt, their long, limp tails swinging in the wind.

— H. V. Morton: *In Search of Scotland*

★ **dry-stone dyke [dike], stone dyke [dike]**

dyke は ditch (溝) や embankment (堤) の意味でも使うが, ここでは dry-stone wall と同義の方言。

The reverberation of the snow increases the pale daylight, and brings all objects nearer the eye. The Pentlands are smooth and glittering, with here and there the black ribbon of a dry-stone dyke, and here and there, if there be wind, a cloud of blowing snow upon a shoulder.

—R. L. Stevenson: *Edinburgh*

★ **dry-stone waller**

この wall の構築及び修理を仕事とする職人を言う。単に stoner と言うこともある。彼等は仕事を完了するまでは, 何週間であれ現場に野

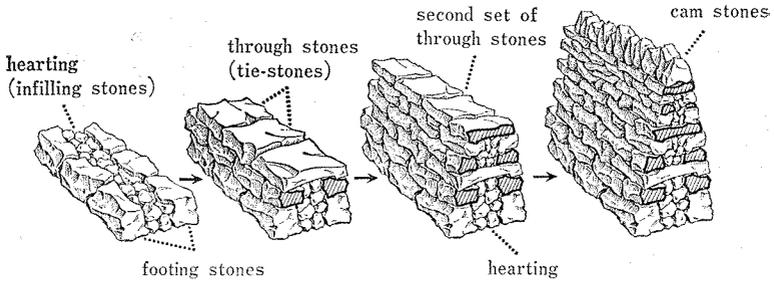
宿を続けては、石積みに携わった。使う石材は露天の石切場から採るのが通例だが、採った石材は馬車に乗せると丘の斜面で転倒の危険があるため、木製の sled (橇) で運んだ。腕の良い職人になると石を適当な大きさに切ることはせずに、自然石をそのまま利用すると言われる。この技術が、craft (職業) として定着するようになったのは、18世紀の農業改革に依るが、それ以前にも、一般の農夫が自分で築いた wall というものも、無論あったのである。

### ★ dry-stone walling

dry-stone wall construction (この石塀の構築) のことであるが、W. Rollinson の *Life and Tradition in the Lake District* の説明に主として依ると、次のような手順になる。

まず、地面に幅3～4フィートの溝を浅く掘り、その中に大きな四角い自然石を2列に平行に据えて、footing stone (土台石) とする。これがこの wall に使われる石の中では最も大きなものであって、縦の長さは数フィートになる。次にこの2列の footing stone の間に hearting (中詰め) に用いる小さな、不規則な形の石片。infilling stone とも言う) を詰め込み、更にその footing stone の上にまた石を積むわけであるが、その際に、下の石2枚の上に、上の石1枚が重なるように積まなければならない。そしてまた hearting (中詰め作業) を行う。あとはこの繰り返しになるが、その途中に、一定の間隔を置いて、footing stone に対し直角に through stone (つなぎ石、tie-stone とも言う) を入れる。これは2列に積み上げて行く wall をまさにつなぐと同時に、その強度をも増す意味で用いられるのである。通例は、完成した wall の中には全部で2乃至3段入れられてある。wall の横の幅は高さが増すにつれて、1～2フィートは狭められて行き、最後に、頂部には cam (stone) と呼ぶ石を載せて完成するが、それは家畜が wall を飛び越えようとする気持を挫くのが狙いであると言われる。

East Midlands (イングランド中東部) では、出来上った wall の高さは、field (耕地・放牧場) の境界を定める場合のそれは、約4フィート6インチ、farm (農場全体) の場合のそれは、約5フィート6インチが通例であるとされる。また、wall の内部では、中に用いられる石材は外側へ傾斜するように入れられてあるが、それは雨水が内部に溜まるのを

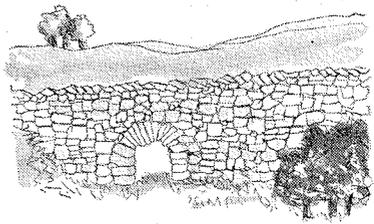


(10) **dry-stone walling**

避ける目的であって、中へ入った雨水が hearting に吸収されると、冬期は hearting に結氷が生じ、wall が傷むからである。

★ **hogg-hole**

この wall の下の方に四角い抜け穴が通されている所があるが、それを指す。hogg (子羊) が heaf (羊の牧草地) から別の heaf へと通り抜けが出来るようにしたものである。



(11) **hogg-hole**

★ **rabbit smoot**

同じくこの wall の下の方に、rabbit (兎) が通り抜けるための、上述の hogg-hole よりは小さな穴をあけ、その反対側に罾を仕掛けて置く場合があるが、その抜け穴を指す。

**field**

通例 fence (柵) や hedge (生け垣) や dry-stone wall で囲まれていて、(1)作物を栽培するための tillage (耕地)、(2)pasture (牧草地) として、牛や羊などを放牧する土地を意味する。→**pasture**

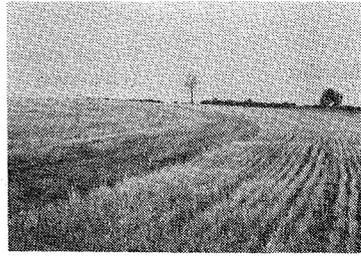
a field of cattle とか The field is winter wheat. などと用いられる。a waving wheat field (起伏する小麦畑) などと言うのは、英国 田園風景の特色の一つである。

(1)の意味で、

A twig broke under her foot like a shot, and the owl screamed



(12) Dunster



(13) Stratford-upon-Avon

across the ploughed field beyond the hedge.

— G. Greene: 'A Drive in the Country'

... our farmers are rarely forced to make fields out of hill or mountainsides and land difficult to cultivate has traditionally been used for grazing sheep.

— D. G. Healey: *Aspects of English Life*

(2)の意味で

There's the field where the bull chased Ginger Rogers! And there's the place where the horse-mushrooms used to grow! But there weren't any fields or any bulls or any mushrooms.

— G. Orwell: *Coming Up for Air*

★ fallow

鋤き返したまま一年間あるいは一期間、作付けせずに休ませてある耕地を言う。休閑地。

The woods and brooks, the sheep and kine,

He is, the hills, the human line,

The meadows green, the fallows brown,

The dreams of labour in the town;

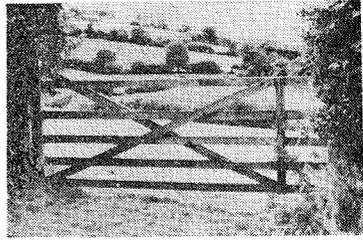
— G. Meredith: 'The Lark Ascending', 71-4

★ field gate

field の出入口及びその扉を指す。→meadow gate

Taking off his overcoat and carrying it on his arm, he went

back to the gate, and passed through into a field of grass. He walked downwards to the hedge on the left, followed it round, and presently came in view of the sea, bright, peaceful, hazy, with a trail of smoke in the distance.



(14) Chagford

— J. Galsworthy: *A Modern Comedy*

▲ gatepost

蝶番などでこの扉を取り付ける柱を指す。時にはその建造された年数の記されていることもある。

I bent down to pick a primrose .... The leaves were kind of crinkly and shaped like rabbits' ears. I stood up and put my bunch of primroses on the gate-post.

— G. Orwell: *Coming Up for Air*

▲ metal gate

鉄製の field gate を言う。

Through metal gate and continue straight ahead.

— AA *Book of Country Walks*

▲ wooden gate

木製の field gate を言う。→(14)

He raised his foot from the accelerator and let the car's speed gradually diminish. Somebody had left a wooden gate open into a field and he turned the car in; they jolted a long way down the field beside the hedge and came to a standstill.

— G. Greene: 'A Drive in the Country'

hedge, hedgerow

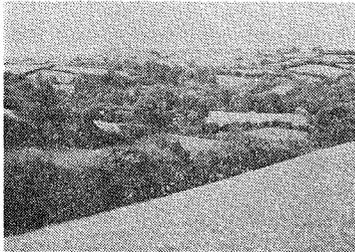
畑地や牧草地・放牧場などの境界を示す囲いの生け垣を指す。主とし

て E. Thomas & J. White の *Hedgerow* の説明に依ると、先ず、hawthorn (サンザシ) の若木を移植 (種から植えて育てる場合もある) するが、若木と若木との間隙は、互いの横枝で隠せる程の距離に植え、支柱の杭を打ち、更に若木を斜めに曲げてからめたり、hazel (ハシバミ) の枝を編み合せたりして造られる。繁殖させるより枯らす方が困難とまで言われる hawthorn の生け垣は、それ自体で頑丈なものであるが、この生け垣の所々に生えて来る oak (オーク), ash (トネリコ), elm (=レ), withy (コリヤナギ), elder (=ワトコ), crab apple (野リンゴ), wild pear (野ナシ) などの木に依って、それは一層堅固な囲いとなるのである。これらの木は、木材の供給源ともなる理由から、そのまま伸びるに任せて置かれるが、生け垣の方は、狩猟の際に馬で飛び越せる高さ (人間の肩の高さ程度と言われる) を保つように、刈り込みがなされなければならない。また、hawthorn が十分に育成するように、土地の水気を抜く目的で、hedge bottom (生け垣の土手の下) に沿って、drainage ditch (排水溝) も掘られるのが通例 (掘られない場合もある) で、そのために生け垣の所が高い土手 (cam) になっているのも見られる。high banked hedges などと言う表現はそれを意味したものである。この生け垣は、防風・土留め (土壌の流出を防ぐ) 及び家畜や作物を風雨から守り、適度の湿気をも保ち土地を肥沃にすると言う農業の面のみならず、動植物にとっても極めて重要な意味を持っているのである。哺乳類は英国全体での種類の $\frac{1}{2}$ 、爬虫類はその全種類、鳥類はその $\frac{1}{3}$ が、ここを棲息地としており、草花は、適度な日陰のために、森林や野原に見られるよりも種類が多く、一千種にも達する。特に春から初夏の季節のものをあげると、lesser celandine (キンポウゲ), lesser stitchwort (ハコベ), herb Robert (ヒメフウロ), campion (センノウ), primrose (サクラソウ)——以上は春に咲くものであるが、初夏の花には、五月の頃に白または紅の花を咲かせる生け垣自体の hawthorn を初めとして、cow parsley (シヤク), figwort (ヒナノウスツボ), hogweed (ブタクサ), hemlock (ドクエインジン), nettle (イラクサ), thistle (アザミ), blackthorn (リンボク), hazel (ハシバミ) などである。この生け垣は18世紀の enclosure (囲込み) を特色とする農業改革を通してその数を増し、かつ、改革後も common possession (村民の共有物) として残り、また、かつては、秋にはここで刈り取った小枝は薪に利用され、alder (ハンノキ), hazel (ハシバミ) など

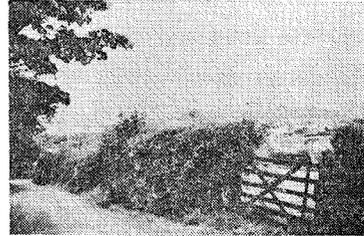
は牛などの家畜の飼料に使われ、その他種々の薬草の供給源にもなっているのであるが、現今ではそう言う面では殆ど顧みられなくなっている。現在残存するものの多くは、百年乃至二百年前に造られたものであるが、中には千年以上を経ているものもある。dry-stone wall と比べ、完成には遙かに時間を要するが、一旦出来上がると、上述のように自ら多様性を増しつつ成長するこの生け垣も、イングランドの中部及び南部を中心に、前者の場合と同様に、平野や丘陵を patchwork(寄布細工)宜敷く囲いを成して、英国全土で50万マイルに達し続けているのである。しかし、我国の水田を基盤の目に喩えるならば、まさしく chequerboard (市松模様のチェッカー盤) の目に準えられる、この英国田園風景の一大特色である生け垣も、近代農業の下に次第に姿を消しつつあると言われて



(15) Chagford



(16) Chagford



(17) Chagford

hedgerow に宿る昆虫に触れた例を示すと、

The poetry of earth is never dead:

When all the birds are faint with the hot sun,  
And hide in cooling trees, a voice will run

From hedge to hedge about the new-mown mead;

— J. Keats: 'On the Grasshopper and Cricket'

hedgerow に咲く草花のことでの例を示すと、

It must have been early in the spring when my uncle went away, for the crocuses were just blown in the garden, and the primroses had begun to peep from under the young budding

hedgerows.

— M. Lamb: 'The Sailor Uncle'

hedgerow とそこに生える木々あるいは棲息する動物に関する例を示すと、

Nothing could exceed the neatness of my little enclosures: the elms and hedge-rows appearing with inexpressible beauty.

— O. Goldsmith: *The Vicar of Wakefield*

'Peaceful,' he said uneasily; and they heard a screech owl hunting overhead and a small rustle in the hedge where something went to hiding. They belonged to the city; they hadn't a name for anything round them; the tiny buds breaking in the bushes were nameless. He nodded at a group of dark trees at the hedge end. 'Oaks?'

— G. Greene: 'A Drive in the Country'

hedgerow に巣を作る小鳥と子供の行動を描写した例を示すと、

Turning off the high-road up a green lane, an hour later, he beheld a youngster prying into a hedge head and arms, by the peculiar strenuous twist of whose hinder parts, indicative of a frame plunged on the pursuit in hand, he clearly distinguished young Crossjay. Out came eggs. The doctor pulled up.

'What bird?' he bellowed.

'Yellowhammer,' Crossjay yelled back.

'Now, sir, you'll drop a couple of those eggs in the nest.'

— G. Meredith: *The Egoist*

現今では次第に姿を消しつつある hedgerow を嘆いた例を示すと、

In the old days there used to be huge beeches growing in the hedgerows, and in places their boughs met across the road and made a kind of arch. Now they were all gone.

— G. Orwell: *Coming Up for Air*

### ★ country hedge

一般家屋などの庭の生け垣を garden hedge と言うが、それに対し、畑地や牧草地のそれを区別して言う時に用いる。rambling (うねって続

く)の形容詞が冠せられることもある。→(15)(16)(17)

▲ **farm hedge**

country hedge の内の特に farm (農場)のそれを指す。

★ **dead hedge**

中世に、サクソン族は hawthorn の茎を森から切り出し、それを縦横に組み合せ、更に hazel の枝を編み込んで造ったものを村と村の境界柵とした。彼等は 'haga' (hawthorn の実を表わす語に由来)と呼んだが、それは毎年新たに造り直す必要があったものであるために、「死に垣」と言う。

▲ **live hedge**

ノルマン征服(1066年)後の、hawthorn などの苗木を用いた方は、根を張り年々成長して行くものであるために、「死に垣」に対して「生け垣」と言う。

★ **gamekeeper**

ヴィクトリア朝時代、狩猟法に基づいて、生け垣を隠れ場所にする game birds (猟鳥)、特に、pheasant (キジ)と partridge (ヤマウズラ)を保護監視する役の者を言う。

Have I not seen the gamekeeper, the groom,  
Gardener, and huntsman, in the parson's place,

—A. Tennyson: *Queen Mary*, IV. iii. 253—4

★ **hedger**

この生け垣の造作・修繕・剪定を仕事とする職人を指す。hand-rake (手持ち熊手), billhook (鉈鎌), mallet (木槌)の三つをその道具とする。hedge-carpenter と言う場合もある。

In the autumn the hedger will trim the new growth back so that the bush grows more thickly at the base.

—E. Thomas & J. White: *Hedgerow*

★ **hedge-popping**

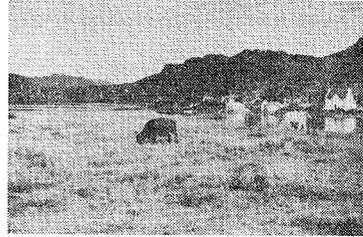
チューダー朝時代、村の子供の行ったことで、thrush (ウタツグミ), fieldfare (ノハラツグミ), sparrow (スズメ)などを生け垣から追い立てて、それらがぱっと飛び上った所を撃って捕獲した。

**meadow, meadowland**

hay (干し草)にするための牧草を刈り取ったり、家畜を放牧したりする草地で、hedgeなどの囲いがあるとは限らない。また、川などのそばで、灌漑の良い草地も指す。lush meadowlands (青々とした草地), open meadow (広々と続く草地)などと言う。



(18) Dundee



(19) Wester Ross

In the meadow—what in the meadow?  
Bluebells, buttercups, meadowsweet,  
And fairy rings for the children's feet  
In the meadow.

— C. G. Rossetti: *Sing-Song*

... Jack at last reached the top of the beanstalk and found himself in a beautiful country with fine meadows dotted with grazing sheep.

— 'Jack and the Beanstalk', ed. B.B. Sideman

So he led me very kindly to the top of the meadow land, where the stream from underground broke forth, seething quietly with a little hiss of bubbles. Hence I had fair view and outline of the robbers' township, spread with bushes here and there, but not heavily overshadowed.

— R. D. Blackmore: *Lorna Doone*

In England, farming often means cattle or sheep farming and the farm-land is meadow where people are free to wander, picnic or camp as long as they keep an eye open for bulls and do no damage to fences or gates.

— D. G. Healey: *Aspects of English Life*

★ lea

meadow と同義の古語あるいは詩語として用いられる。

Three of us afloat in the meadow by the swing,

Three of us aboard in the basket on the lea.

— R. L. Stevenson: 'Pirate Story', 1-2

★ mead

meadow と同義の古語あるいは詩語として用いられる。

In the meads, sheets of spiders'-web, almost opaque with wet, hung in folds over the fences...

— T. Hardy: *Under the Greenwood Tree*

meadow gate

meadow の出入口の扉を指す。→field gate

To house and garden, field and lawn,

The meadow-gates we swang upon,

To pump and stable, tree and swing,

Good-bye, good-bye, to everything!

— R. L. Stevenson: 'Farewell to the Farm', 5-8

★ meadow grass

イネ科イチゴツナギ属(Poa)の雑草の総称で wiregrass (コイチゴツナギ), Kentucky bluegrass (ナガハグサ) など牧草に有用の多年生の草を指す。広義で牧草の意は pasture grass と言う。

And blown by all the winds that pass

And wet with all the showers,

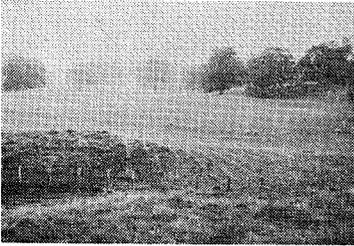
She walks among the meadow grass

And eats the meadow flowers.

— R. L. Stevenson: 'The Cow', 9-12

★ **pasture, pastureland**

牧草地のこと。green pasture などと使う。hill pastures と言えば、丘陵の牧草地を指すことになる。



(20) Lake District



(21) hill pastures  
Lake District

And did those feet in ancient time  
Walk upon England's mountains green?  
And was the holy Lamb of God  
On England's pleasant pastures seen?

— W. Blake: *Milton*, preface, 1-4

... but the slopes are as green and fertile as the valleys and  
provide rich pasture for sheep and cows.

— M. Mackenzie and L. Westwood: *Background to Britain*

▲ **paddock**

馬小屋や人家に近い所にある小さな放牧場を指す。



(22)

"How loud the birds are,"  
said Linda in her dream. She  
was walking with her father  
through a green paddock sprinkled  
with daisies. Suddenly he  
bent down and parted the grasses  
and showed her a tiny ball  
of fluff just at her feet.

— K. Mansfield: 'Prelude'

### ▲ paddock fence

上記 paddock の囲いを指す。

A lovely kingfisher perched on the paddock fence preening his rich beauty, and a *tui* sang his three notes and laughed and sang them again.

— K. Mansfield: 'Prelude'

### ★ rolling meadow, undulating meadow

meadow の起伏して続く様を言ったもの。

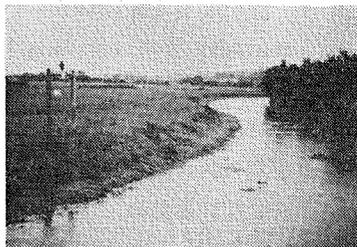
The first memorable fact noticed when visiting this house is that for almost the whole of the long, serpentine length of the approach drive, beneath great trees casting their wide shadows over rolling, undulating meadows, the house itself remains hidden.

— G. Hogg: *A Guide to English Country Houses*

### ★ water-meadow

河水に依って、あるいは、海の近くの湿地帯などにあつて、灌漑の良い meadow を特にこう呼ぶ。

Summer days, and the flat water-meadows and the blue hills in the distance, and the willows up the backwater and the pools underneath like a kind of deep green glass. Summer evenings, the fish breaking the water, the nightjars hawking round your



(23) Dorset

head, the smell of nightstocks and Latakia.

— G. Orwell: *Coming Up for Air*

### public footpath

歩行者専用の道でしかも公道。都会にもあるが、特に、美しい田園・丘陵や湖水・森林の地域の散策に歩く道を指す。それを示す signpost (道標柱) が据えてあることもある。我が国の自然遊歩道と言うと分かり

が良いかも知れぬが、その規模と内容に於いては、甚だしく異なる所がある。AA *Book of Country Walks* の説明に依ると、以下の次第になる。

今日の public footpath になっているものの中で、過去の時代から残存しているものに、古代ローマ人が戦略上敷いた舗装の道路、牛飼いが牛などを市場へ引いて行くのに通った道、巡礼が聖地へ赴くのに旅をした道、死者を運んで辺鄙な土地から村の教会へと向った道、など様々である。その距離の合計を概略示すと、イングランド及びウェールズ内では約 103,000 マイル、スコットランドではこれより更に数千マイル多く、また、都市地域内のもものでは英国全体で約 20,000 マイルにも達する規模である。

次に、内容の点で我が国の自然遊歩道などと極めて異なる面を幾つか挙げて見る。

(→) walker (歩行者) は、footpath に指定されている所は全て歩く権利を持ち、その道から逸れて他の土地へ迷い込めば、所謂 trespasser (不法侵入者) となるわけだが、中には特定の道のみこだわることなく、自由に歩いても許される土地があると言うことである。それは大別して以下の二種になる。

(i) common land

common 乃至 common land (共有地) と呼ばれる土地は、今日に至るまで土地そのものは private land (私有地) ではあるが、過去の時代からの right of common (共有権・入会権)——村民のたきぎを刈り取ったり、家畜を放牧したりする権利——が現今でもなお存続しているため、この土地は public footpath の延長上にあると考えられている。

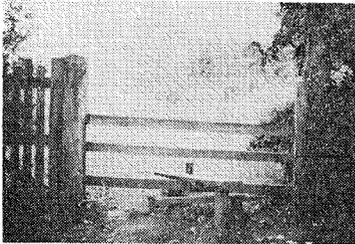
(ii) access land

地方自治体と土地所有者との間の協定に依り、あるいは、地方自治体がその目的で買い取った上で、walker に開放している土地を意味するが、その代表的なものには、the Peak District National Park, the Lake District National Park, the Yorkshire Dale National Park がある。

また、上記のように公的な意味に依るものではなく、土地所有者が慣例で開放している所もあり、the Scottish Highlands, the

North York Moors, Dartmoor 及び Exmoor の moorland, 更に, the National Trust の所有地などがそれに当たる。

(二) farmland(農地)の中を public footpath が通っている場合, 土地所有者はその道を耕作し, 作物を栽培する権利が与えられているため——もっとも, 耕作から5週間以内に, 元の状態に戻さねばならないことになっているが——walker の方も, 不必要な被害を及ぼすことのない限り, その farmland を元の道に沿って歩くことは許されている。また, 時にその道が, 法的には許可されていないのにもかかわらず, 障害物——農機具なり, 有刺鉄線なりで——遮断されている場合には, walker は当然その障害物を乗り越えて歩いても良いことになっている。



(24) stile を越えて進むことが出来る。  
Dunster



(25) gate を通って歩くことが許される。  
Dunster



(26) 放牧場の中を通って行く  
footpath。  
Ambleside



(27) public footpath の sign-post

public footpath の案内地図には例えば次のように記されてある。

Where lane swings left, turn right over stile and cross two fields.

次の文章も内容は public footpath に触れたものである。

In England, farming often means cattle or sheep farming and the farm-land is meadow where people are free to wander, picnic or camp as long as they keep an eye open for bulls and do no damage to fences or gates.

— D. G. Healey: *Aspects of English Life*

以下の二例も public の形容詞こそないが、同じくこの footpath のことである。

They alighted out of the Coach near a small Footpath in a Field; and *Glumdalclitch* setting down my travelling Box, I went out of it to walk. There was a Cow-dung in the Path, and I must needs try my Activity by attempting to leap over it.

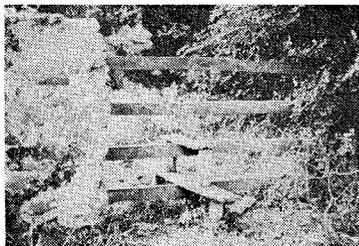
— J. Swift: *Gulliver's Travels*

There was a road that branched off from the road to Upper Binfield and ran along under the edge of the hills. There was a long stretch of it, nearly a mile, that was quite straight and fringed with enormous horsechestnut trees, and on the grass at the side there was a footpath under the boughs that was known as Lovers' Lane. We used to go there on the May evenings, when the chestnuts were in blossom.

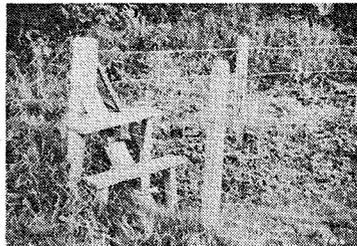
— G. Orwell: *Coming Up for Air*

### stile

(1)牧草地・放牧場などの出入りにいちいち gate (出入口) を通らなくても、その柵や塀を、家畜は不可能だが、人間は乗り越えられるように



(28) wooden country stile  
Dunster



(29) wooden country stile  
Ambleside

と設けた踏み段である。(2)牧草地・放牧場のみならず、教会の境内の塀などにも付けられてあるもの。特に churchyard stile と呼ばれる。(1)及び(2)の場合共に、木製・石造りの二種がある。

(1)の意味で

Three plum buns  
To eat here at the stile  
In the clover meadow,  
For we have walked a mile.

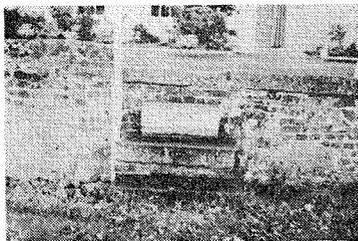
— C. G. Rossetti: *Sing-Song*

Jog on, jog on, the foot-path way,  
And merrily hent the stile-a:  
A merry heart goes all the day,  
Your sad tires in a mile-a.

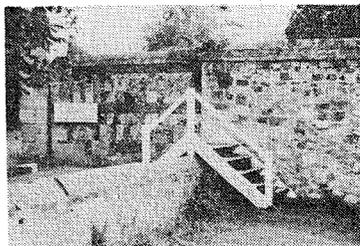
— W. Shakespeare: *The Winter's Tale*, IV. iii. 132-5

He crossed a stile into the wood above the lake, where, as he was in the humour to think himself signally lucky, espying her, he took it as a matter of course that the lady who taught his heart to leap should be posted by the Fates ... She stood holding by a beech-branch, gazing down on the water.

— G. Meredith: *The Egoist*



(30) churchyard stile  
Salisbury Cathedral



(31) churchyard stile  
Salisbury Cathedral

(2)の意味で、

I was one day sitting on a step placed across the church-yard stile, when a gentleman passing by, heard me distinctly repeat the letters which formed my mother's name, and then say,

*Elizabeth Villiers*, with a firm tone, as if I had performed some great matter.

— M. Lamb: 'The Sailor Uncle'

I took my seat on the church-yard stile, and kept looking down the road, and saying, 'I hope I shall not see my uncle again. I hope my uncle will not come from *beyond seas* any more;' ...

— *Ibid.*

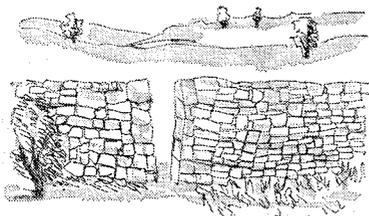
以下、一風変わった型の stile について述べて置く。

★ gap stile

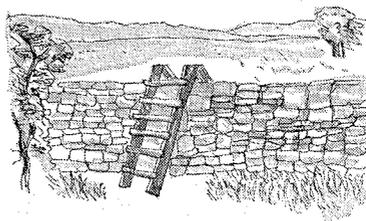
dry-stone wall に、人間のみ通り抜けが可能な隙間を構えてあるものを言う。→(32)

★ ladder stile

柵や塀のこちら側と向う側に梯子を立て掛けて置いて、出入りするものを言う。→(33)



(32)

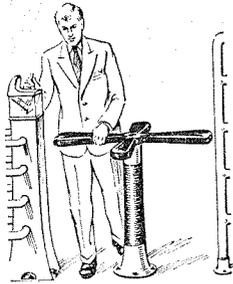


(33)

★ turnstile

挿絵のものは一目瞭然とわかるが、固定された垂直の柱に、中心から分出する木製あるいは金属製の四本の腕木が取り付けられていて、それを回転させて通り抜ける仕掛けになっており、入場料などの支払いを要求される劇場などの入口に設けられるものである。写真に示したのは、扉を前方へ押した所で stile の中に入り、更に一旦引き戻して置いて、向う側へ通り抜けて行くようにしたもので、こちらの方は、牧草地など

にも据えられる。

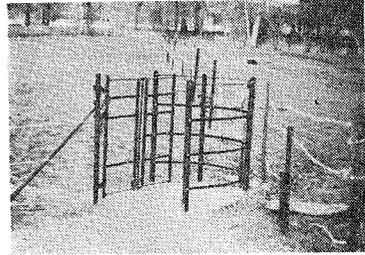


(34)

挿絵の stile の方の意味で、

I could not find any sixpenny entrance and, fearing that the bazaar would be closed, I passed in quickly through a turnstile, handing a shilling to a weary-looking man. I found myself in a big hall girded at half its height by a gallery.

— J. Joyce: 'Araby'



(35) Twickenham

### village green

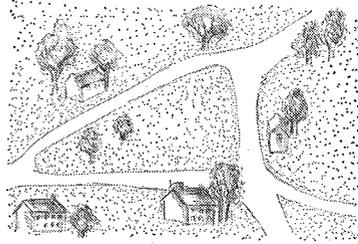
村の中にまたはその近接した場所にある草地で、村落共同体の中心となる所である。AA *Book of British Villages* に依ると概略は次のようになる。

May Day (五月祭) には maypole dance が行われ、あひるや鶯鳥のいる pond (池) があり、牛・馬・羊などに草のみならず、水を与えることの出来る場所でもあり、pump (水を汲み上げるポンプ) も備えられており、更にはその昔には、lock-up (一人用獄舎)、stock (さらし枷<かせ>), whipping post (鞭打ちの刑の際に縛り付けて置く柱) なども据えて置かれたのが通例である。その地所の面積及び全体の形は様々であるが、3 エーカーが平均した所で、形は三角形あるいは長方形が普通であるが、特に、二本以上の道路の交差に依って出来る前者の形が良く知られている。その起源は明確ではないが、中世にあって、村の家畜を日中のみ(夜間は盗まれないように柵の中に入れて置いた) 囲って置くための場所としたのであろうと言われる。

この意味の green を町のそれを指して使うこともある。

When children are playing  
alone on the green,  
In comes the playmate that  
never was seen.

— R.L. Stevenson: 'The  
Unseen Playmate', 1-2



(36)

Dost thou look back on what hath been,  
As some divinely gifted man,  
Whose life in low estate began  
And on a simple village green;

— A. Tennyson: *In Memoriam*, LXIII, 1-4

## 引用した作品及び著者一覧

- Blackmore, R. D.: *Lorna Doone*  
Blake, William: *Milton*  
Dickens, Charles: *Christmas Carol, A*  
Galsworthy, John: *Modern Comedy, A*  
Goldsmith, Oliver: *Vicar of Wakefield, The*  
Green, Graham: 'Drive in the Country, A'  
Hardy, Thomas: *Under the Greenwood Tree*  
Healey, D. Gillian: *Aspects of English Life*  
Hogg, Garry: *Guide to English Country Houses, A*  
Joyce, James: 'Araby'  
Keats, John: 'On the Grasshopper and Cricket'  
Lamb, Mary: 'Sailor Uncle, The'  
Mackenzie, M. D. and Westwood, L. J.: *Background to Britain*  
Mansfield, Katherine: 'Prelude'  
Meredith, George: *Egoist, The*, 'Lark Ascending, The'  
Morton, H. V.: *In Search of Scotland*  
Orwell, George: *Coming Up for Air*  
Rossetti, C. G.: *Sing-Song*  
Shakespeare, William: *Winter's Tale, The*  
Stevenson, R. L.: 'Cow, The', *Edinburgh*, 'Farewell to the Farm',  
'Pirate Story', 'Unseen Playmate, The'  
Swift, Jonathan: *Gulliver's Travels*  
Tennyson, Alfred, Lord: *In Memoriam*  
Thomas, E. and White, J. T.: *Hedgerow*  
Wordsworth, William: *Lucy Gray, or Solitude*

## 参考書目

- R. J. Allen: *The Clubs of Augustan London*, Archon Books, Connecticut, 1967.  
G. Bourne: *Change in the Village*, G. Duckworth & Co., Ltd., 1912.  
R. Cameron and A. Cooke, *Above London*, Cameron and Company, California, 1980.  
R. J. Emery: *The Englishman's England*, Macmillan & Co., Ltd., London, 1968.

- C. Gascoigne: *Castles of Britain*, Thames and Hudson, London, 1975.
- G. Hutton, E. Smith and O. Cook: *English Parish Churches*, Thames and Hudson, London, 1976.
- D. G. Healey: *Aspects of English Life*, Shinko-Shuppansha Keirinkan Publishing Co., Ltd., 1974.
- G. Hogg: *A Guide to English Country Houses*, The Hamlyn Publishing Group Ltd., London, 1969.
- J. Kerr: *Shakespeare's Flowers*, Penguin Books Ltd., Harmondsworth, 1969.
- J. Kirkup: *English Customs and Festivals*, Seibido Co., Ltd., 1973.
- M. D. M. Mackenzie and L. J. Westwood: *Background to Britain*, Macmillan Education Ltd., London, 1974.
- A. Martindale: *Gothic Art*, Thames and Hudson, Norwich, 1979.
- R. J. Mitchell and M. D. R. Leys: *A History of London Life*, Longmans Green and Co., London, 1958.
- H. V. Morton: *H. V. Morton's London*, Methuen & Co. Ltd., London, 1946.
- In Search of Scotland*, Methuen & Co. Ltd. London, 1929.
- In Scotland Again*, Methuen & Co. Ltd., London, 1933.
- A. E. Richardson: *The Old Inns of England*, B. T. Batsford Ltd., London, 1935.
- W. Rollinson, *Life and Tradition in the Lake District*, J. M. Dent & Sons Ltd., London, 1974.
- T. Sheehy and N. Habgood: *Ireland in Colour*, B. T. Batsford Ltd., London, 1975.
- E. Smith: *A Guide to English Traditions and Public Life*, Oxford University Press, London, 1953.
- E. Thomas and J. T. White: *Hedgerow*, Dorling Kindersley Ltd., London, 1980.
- G. M. Trevelyan: *English Social History*, Longmans Green and Co., London, 1944.
- D. Watkin: *English Architecture*, Thames and Hudson, London, 1979.

◎案内図典類

*AA Book of British Villages*, Drive Publications Ltd., London, 1980.

- AA Book of Country Walks*, Drive Publications Ltd., London, 1979.  
*AA Hand-Picked Tours in Britain*, Drive Publications Ltd., London,  
 1977.  
*AA Illustrated Guide to Britain*, Drive Publications Ltd., London, 1977.

◎写真や挿絵を用いてある辞典類

- The American Heritage Dictionary of the English Language*, American  
 Heritage Publishing Co., Inc., 1973.  
*Birds of Britain and Europe in Colour*, Bladford Press, Dorset, 1975.  
*The Dictionary of Garden Plants*, Michael Joseph and Ebury Press,  
 London, 1976.  
*The English Duden*, Bibliographisches Institut, 1960.  
*The Golden Book Illustrated Dictionary* (six vols.), Golden Press, 1961.  
*Longman Dictionary of Contemporary English*, Longman Group Ltd.,  
 1978.  
*Longman Lexicon of Contemporary English*, Longman Group Ltd., 1981.  
*Longman New Universal Dictionary*, Longman Group Ltd., 1982.  
*The New Oxford Illustrated Dictionary*, Oxford University Press, 1978.  
*Oxford Children's Picture Dictionary*, Oxford University Press, 1981.  
*Oxford Elementary Learner's Dictionary of English*, Oxford University  
 Press, 1981.  
*Oxford English Picture Dictionary*, Oxford University Press, 1977.  
*Oxford Picture Dictionary of American English*, Oxford University  
 Press, 1978.  
*Pictorial English Word-book*, Oxford University Press, 1967.  
*The Pocket Dictionary of Art Terms*, John Murray (Publishers) Ltd.,  
 1980.  
*Room's Dictionary of Distinguishables*, Routledge & Kegan Paul, 1981.  
*Visual Dictionary*, Time-Life Educational Systems Co., Ltd., 1982.  
*What's What*, Ballantine Books, 1981.

—索引—

country hedge.....(14)	dry-stone dyke (dike).....( 7)
country road .....( 4)	dry-stone wall.....( 6)
dead hedge .....(15)	dry-stone waller.....( 7)

dry-stone walling .....	( 8)	meadow grass.....	(17)
fallow.....	(10)	meadowland.....	(16)
farm hedge .....	(15)	metal gate .....	(11)
field .....	( 9)	milestone .....	( 5)
field gate .....	(10)	paddock.....	(18)
fingerpost.....	( 5)	paddock fence.....	(19)
gamekeeper .....	(15)	pasture .....	(18)
gap stile .....	(24)	pasture grass→meadow grass	
gatepost.....	(11)	pastureland .....	(18)
guideboard .....	( 5)	public footpath .....	(19)
guidepost .....	( 5)	rabbit smoot .....	( 9)
hedge.....	(11)	rolling meadow .....	(19)
hedge-carpenter→hedger		signpost.....	( 5)
hedge-popping.....	(16)	stile .....	(22)
hedger .....	(15)	stone dyke (dike) .....	( 7)
hedgerow .....	(11)	stoner→dry-stone waller	
hogg-hole .....	( 9)	stone wall.....	( 6)
ladder stile .....	(24)	turnstile .....	(24)
lea .....	(17)	undulating meadow .....	(19)
live hedge.....	(15)	village green .....	(25)
mead .....	(17)	water-meadow.....	(19)
meadow.....	(16)	wooden gate .....	(11)
meadow gate .....	(17)		